

# 平成29年度事業報告書

学校法人葛谷学園

中和医療専門学校

# 「平成29年度事業報告書」

## I 管理部門

### (1) 施設備品の整備充実

- ① 図書室の書棚追加購入
- ② 職員室用パソコン、授業用ノートパソコン、研究室用パソコンの一部買い換え
- ③ 解剖模型（脊柱交連複製モデル、脳、気管支分枝より見た透明肺区域模型）
- ④ 実技室の椅子の買い換え（平成29年度で完了）

等々

### (2) 入学生の確保

#### 1. 学校説明会（オープンキャンパス）の実施

5 / 28(日)	37名	
6 / 24(土)	38名	
7 / 30(日)	76名	
8 / 26(土)	52名	
9 / 24(日)	31名	
10 / 22(日)	17名	計 251名

（同伴者は含まず 前年度は250名）

前年度と同様、開催回数は6回、全回で体験実習を行った。上記学校説明会参加者のうち、延べ134名が実際に受験した（前年度は122名）。参加者はほぼ同数だが、受験者数は増えており、受験率は前年度より増加した。

さらに参加者を増やすために広報を強化し、参加者の受験率を増やすために、学校説明会の内容の充実が望まれる。

#### 2. 学校訪問・進路相談会

学校訪問部会では、高校を中心に、スポーツ系の学部や過去に受験者があった大学、短大及び学校説明会に参加者があった学校に、6月1日～30日にかけて学校訪問を行った（66校訪問）。

また、高校ごとに行う進路相談会にも希望者がいる学校には積極的に参加し、愛専各や業者（マイナビ、さんぽう等）の主催する専門学校展にも可能な限り参加している。その効果が高校現役生の受験数の増加につながっているものと思われるが、高校生にはマッサージ・鍼灸よりも柔道整復の方が希望者が多いと感じられ、高校生に対してマッサージや鍼灸に対する認識を高めるような、方策を検討する必要がある。また、現役生は昼間部への入学希望が多く、夜間部の入学者数を増やすためには、社会人にアプローチできる方策を検討しなければならない。

### 3. 学校案内・募集要項の改訂

志願者数が減少する中で、学生を確保するため、学校案内・募集要項部会では、平成31年度入試用学校案内の一部改定作業を行い、本校の特徴を出し、受験生にアピールしていくことを更に意識した学校案内を作成した。

なお、平成29年度入試用学校案内で全面改定を行なったため、今年度はより学校の内容を分かりやすくなるよう一部改訂を行った。また、今年度も新校舎のリーフレットを学校案内と一緒に配布を行った。

### 4. 入試方法の検討

平成28年度入試から、入学検定料を15,000円に減額した。また、学校説明会参加者にはさらに5,000円減額し、受験者の負担を減らし受験しやすくしている。

また、より優秀な生徒を確保するため、指定校推薦の指定校を平成30年度入試では前年度より更に11校増やし、73校とした。指定校推薦での受験者は27年度入試では2名（柔整昼1、夜1）、28年度入試では6名（専1、柔整昼5）、29年度入試では11名（柔整昼10、夜1）、30年度入試では6名（専1、柔整昼4、夜1）が受験した。前述のように高校生には鍼灸より柔整の方が希望者の多いことが如実に表れている。

受験者数は平成28年度入試と比較して、あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう科は延べ数（欠席者は除く）で8名、はり・きゅう科では3名、柔道整復科Ⅰ部では8名、Ⅱ部では9名の減少であった。

結果的には、入学者の総数は昨年より17名少ない123名の入学であった。

あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう科は何とか定員を充足したものの、はり・きゅう科で8名、柔道整復科Ⅰ部で6名、柔道整復科Ⅱ部に至っては23名、総数で37名の定員割れであり、今後も学校説明会の方法や学校訪問、ホームページ、進学サイトの活用などの広報活動も含め、更に総合的に検討していくことが必要である。

### 5. 広報活動の充実

平成28年度からフェイスブックでの広告を行うようになった。この広告を行った期間（29年8、9月）のホームページのアクセス数は明らかに増加（この期間のユーザー数は5,924、うちフェイスブック広告からのアクセスは2,636、前年同期は4,994＝8月終わり頃から9月第3週まで1ヶ月間フェイスブック広告実施、フェイスブック広告からのアクセスは1,560）しており、効果があったと考えられる。なお、本校のホームページへのアクセスはモバイルが77.2%、デスクトップ・ノート22.8%であり、明らかにモバイルが多く、モバイルに対応したホームページの充実と広告が特に重要と考えられる。また、ホームページ閲覧数（ページ数）は平成28年度より29年度の方が23,770ページ多く、ユーザー数は、

530人ほどの増加にすぎないので、1人あたりの閲覧ページ数が増えており、より興味を持ちじっくり見ている人が増えていると思われる。

進学サイトを通しての資料請求数も「日本の学校」、「マイナビ進学」とも前年度より14～20%ほど増えている。

その他、前年度に引き続き広報部会においてより効果のある広報の方法を検討し実施した。また、平成30年度には進学サイトのトップページに年間を通してバナー広告を行うことや、業者の持っている転職希望者のリストに基づきダイレクトメールを行うなど、社会人へのアプローチを増やすよう努力していく。

広報活動の結果、ホームページの閲覧ページ総数、進学サイトからの資料請求数等に増加傾向がみられるが、受験者数・入学者数は減少している。この原因が如何なるものか検討が必要である。

広報部会としては、今後も更にインターネット等の積極的活用を広報活動に取り入れてく予定である。

### (3) 就職への取り組み

#### 企業説明会の開催

卒業生の就職先の確保充実のため、平成29年6月16日(金)に1号館2階、視聴覚教室、第5実技実習室などにおいて企業説明会を開催した。平成29年度の参加企業は61社であった。

前々年度まで、実施時期は10月であったが、前年度は7月に早めた。今年度はさらに早め、6月に実施した。これは参加企業や生徒に対するアンケートの結果から変更したものである。

この変更に対して特に問題は生じておらず、参加企業からも概ね好評であったので、平成30年度も夏休み前の早めの時期(6月8日)に実施する。

#### 就職相談会の実施

昨年度に引き続き、平成30年3月15日、16日の2日間に亘り、就職未定者に対して就職相談会を実施した。

### (4) 近隣地域の取り組み

#### 1. 輝良ッ都フェスティバルへの取り組み

平成29年度も愛知県私立高等学校教職員連盟(愛私高連)の私学を良くする会主催の「輝良ッ都フェスティバル in 稲沢」が、平成29年11月5日(日)に本校を会場にして開催された。

本校は例年通り「マッサージ教室」を行ない、大変好評であった。

新校舎での実施は大変好評であり、次年度以降も本校での開催を依頼された。

また、前年度から「初夏のつどい」も本校で行いたいとの申し出があり、6月11日(日)に開催された。

この「初夏のつどい」についても今後も本校で開催したいとの依頼があり、輝良ッ都フェスティバルとともに春、秋の恒例行事として会場提供を行っていく。

これらの行事は高校生が多く参加し、本校の存在をアピールする絶好の機会であり今後も積極的に関わっていききたい。

## 2. みのかもハーフマラソンなどでのボランティア活動の取り組み

みのかもハーフマラソン大会等にトレーナーの依頼があり、以下の様に参加した。

- ・愛知県高校陸上尾張大会：5月5日（教員1名、生徒4名）
- ・ウェルフェア2017：5月20日（教員1名、生徒8名）
- ・七宗町レッキーマラソン：12月10日（教員3名、生徒9名）
- ・みのかもハーフマラソン：1月7日（教員3名、生徒16名）

その他、春日井市健康救急フェスティバル、一宮市健康祭り、いちのみやパークマラソン、読売犬山ハーフマラソン、名古屋ウイメンズマラソン等のボランティア活動に参加した。

## (5) 生徒への取り組み

近年、学力や意欲の低下から、退学していく生徒が増加してきている。

このことへの対応として、平成29年度も生徒同士、生徒と教員間のコミュニケーションをよりとりやすくするため、新入学生が入学した早い時期にレクレーション（新入生歓迎行事）を愛知県体育館で行った。クラス内だけでなく、クラス・学年を超えて交流することができるように内容を検討し、実施した。

## (6) 経費削減への取り組み

コピー紙等消耗品、光熱費ほか、経費削減に引き続いて努力している。

## II 教育部門

(あはき科、はき科)

### 1. 教員研修会

第41回（公社）東洋療法学校協会教員研修会が平成29年8月3日（木）～4日（金）に鹿児島県の鹿児島鍼灸専門学校で、鹿児島サンロイヤルホテルにて「斯界黎明の再考」をテーマに開催され、本校の常勤・専任教員13名が参加した。

### 2. 学術大会

第39回（公社）東洋療法学校協会主催学術大会が平成29年10月11日（水）に森ノ宮医療専門学校の主管で大阪の「大阪交流センター」にて行われた。本校からは、「刺入深度と響き感覚の関連性」をテーマにしたポスター発表を1題行った。今回は、学校からバス4台に分乗し、本科・専科の2・3年生生徒（179名）及び引率教員9名が参加した。

### 3. 基礎実習教育の充実

#### ①専任教員と実習助手の2名体制

実技について平成29年度においても、あはきの基礎実習（本科の1年次のあん摩基礎実習・はり基礎実習 H-I・きゅう基礎実習 H、2年次の指圧基礎実習・はり基礎実習 H-II・マッサージ基礎実習・はり基礎実習 H-III、専科の1年次のはり基礎実習 S-I・きゅう基礎実習 S、2年次のはり基礎実習 S-II・はり基礎実習 S-III）について、専任教員と実習助手の2名体制で授業を行い、実技の初動教育を充実させ、本校の特色とし、他校との差別化を図った。

#### ②専任教員2名と実習助手1名による3名体制

本1Aのあん摩基礎実習と専1のきゅう基礎実習 Sについては、専任教員をもう1名助手に付け3人体制で授業を行い実習教育をさらに充実させると共に、このクラスは試験に際し複数教員で採点し、教員間の採点の誤差を無くすようにした。

### 4. 担当科目の専門性と高度化

平成29年度は、非常勤講師1名を採用し、授業担当科目の専門性を高めた。

### 5. 国家試験補習講座・模擬試験の充実

①既卒者の国家試験不合格者を対象に、国家試験対策補習講座を校内で開講し、国家試験の合格率の向上に努めた。また、受講者各個人について特に弱い分野を分析し、各受講者に合った指導をしていくなど、より一層の充実を図った。

②3年生のうち、1年次・2年次の成績があまり良くない生徒26名を対象として、国家試験の合格を目標に国試対策の補講を行った。

③国家試験模擬試験（はき）の実施については、全3年生と既卒者の国家試験対策補習講座受講者を対象に4回実施した。7月14日（金）には学内で作成した国家試験模擬試験（はき）を、11月16日（木）には（公社）東洋療法学校協会主催の統一模擬試験（はき）を、12月4日（月）には理療科教員連盟作成の国家試験模擬試験（はき）を、そして、2月8日（木）には学内で作成した国家試験模擬問題（はき）を実施した。

### 6. 特別講座の開講（カリキュラム外の講座）

2年生において1年次科目の成績不良者（仮進級者）に対し、特別講座A（解剖学・生理学）を開講し、前期32名、後期32名の生徒が進級や国家試験の合格率の向上に努めた。また、2年次の技術実習練習不足を補うため特別講座Cを週1コマ開講し、成績不良者及び受講希望者を対象に24名ほど生徒が参加し、実技の補習を実施した。

3年生については、特別講座B（美容鍼灸・スポーツ鍼治療）を1年通して実施し、さらに前期は、同講座（経絡治療・小児障がいマッサージ）を週当たり1コマずつ実施し卒業後即戦力となる人材育成を図った。

#### 7. (公社) 東洋療法学校協会主催はりきゅう実技審査試験の実施

本科・専科3年生を対象に、11月11日(土)の1日を使い、はりおよびきゅうの実技試験を午前と午後に分かれ実施した。この試験には、(公社)東洋療法学校協会派遣のはりきゅう実技評価委員の先生4名が参加された。それぞれ先生方は、4ブースに分かれ、生徒が行うはり及びきゅうの実技を評価した。合格者には、後日、学校協会から認定書が発行された。

#### 8. 1・2年生学力試験の実施

1年生と2年生全員に対し、3月6日(火)の大そうじ終了後、1年間の学習の総復習ならびに総確認をするという目的で最新の国家試験問題を元に試験問題を作成し学力確認試験として行った。

#### 9. 解剖実習見学

本科・専科2年生を対象に5月1日(月)の午前と午後に分かれて本2ABCと専2の92名が岐阜大学医学部において千田隆夫教授の指導のもと解剖実習見学に参加した。

#### 10. 救命救急講習会の実施

本科・専科2年生を対象に9月25日(月)・26日(火)・28日(木)の3日間の日程で各クラスを振り分けて本校において稲沢消防署職員の方を講師に、心肺蘇生法(CRP)・自動体外式除細動器(AED)の使用法を中心とした救命救急講習会(4時間)を実施した。

#### 11. 入室前試験の実施

本校では、本・専科2年生の1月から中和医療専門学校附属治療所での臨床実習を始めている。そこで、附属治療所に入室する前に2年生を対象に実技試験と臨床に関する学科試験を行っている。本科の生徒には、はりとあん摩の実技試験を、専科の生徒には、はりときゅうの実技試験を、それぞれ11月9日(木)に本2C、10日(金)に本2A、13日(月)に本2B、14日(火)に専2に対して行い、学科試験を11月10日(金)に2年生全員に対して行った。

#### 12. 学科検討会議の実施

学科科目については、常勤教員と非常勤講師のうち学科を担当している教員を集めて本校の会議室で年2回[4月4日(火)と10月4日(水)]学科検討会議を実施し、学科科目の内容の精査や進行度合いなどを話し合い学科シラバスの充実に努め、生徒の基礎学力の向上を目指している。

### 13. 実技打合せ会議の実施

実習科目については、常勤教員と非常勤講師のうち実習を担当している教員を集めて年3回〔4月5日（水）・8月25日（金）・12月22日（金）〕実技打合せ会議を実施し、実習科目の内容の精査や進行度合いなどを話し合い実習シラバスの充実に努め、生徒の実技技術の向上を目指している。

### （柔整科）

#### 1. 教員研修会の参加

第59回（公社）全国柔道整復学校協会主催教員研修会が平成29年8月19日（土）、20日（日）に朝日医療大学校が主管校となり、校舎内（岡山）で開催された。本校からは教員7名が参加した。

#### 2. 柔道大会の参加

①第10回愛知県柔道整復専門学校柔道大会が6月18日（日）に愛知県武道館で開催され本校からは引率教員2名、スタッフ6名（顧問、監督、コーチ、トレーナー）、選手生徒7名の計15名が参加した。

②第50回（公社）全国柔道整復学校協会主催柔道大会が平成29年8月9日（水）に東京武道館で開催された。本校からは引率教員1名、スタッフ5名（顧問、監督、コーチ、競技役員）、男子生徒が7名（三部）、女子生徒が5名（二部）の計18名が参加した。

#### 3. 認定実技審査の実施

（公財）柔道整復研修試験財団による認定実技審査（柔道整復実技と柔道実技）が平成29年11月26日（日）に本校4号館で開催された。常勤教員による「認定実技審査、柔道整復実技審査マニュアル」小冊子を作成し、それを生徒に配布して実技指導にあたった。受審者31名全員が合格した。

#### 4. 補講講義の実施

学力向上対策の一環として1年生には基礎学力試験を課し基準に満たない生徒に対して基礎学力向上を目的とした講座を通年で実施、3年生にも2年次前期科目単位未修得者に対して補講を通年で実施した。

#### 5. 国家試験対策の充実

国家試験対策として2年生に実力試験を2回実施、3年生にも模擬試験を2回実施した。さらに3年生には2月に外部模擬試験を受験させると共に、必修問題（合格基準、正解率80%以上）対策の授業を組み込み全員国家試験合格を目指した。



## 6. 実習の充実

- ①柔道実技において傷害防止と習熟度向上を目的として指導者3人による集団指導体制を平成20年度に導入しており、29年度も引き続き実施した。
- ②附属接骨院においては平成20年から岐阜工業高校と提携したことにより、岐阜工業高校の生徒が、また平成22年6月には名古屋文理大学ハンドボール部の学生が臨床実習の時間に来院することとなった。このことにより臨床実習を行う時の患者確保に繋がり、充実した臨床実習の場を提供できる素地ができた。
- ③解剖見学実習を5月2日（火）に岐阜大学医学部解剖実習室で行った。解剖学講座の千田教授の指導のもと柔整科2年の41名が参加した。
- ④救急救命（AED）講習を7月24日（月）に稲沢市消防職員の指導のもと柔整科2年の42名が参加した。修了証を全員取得した。
- ⑤医院見学実習を名古屋駅近くの米田医院の協力を得て行った。8月の4日間、1日2名の受入で柔整科3年生の7名の生徒が実習を行った。院長と本校卒業生であるスタッフ指導のもと貴重な体験をすることができた。

## 7. 特別講演の実施

- ①接骨院開業準備セミナーを7月24日（月）に柔整科3年生を対象に講演を行った。他校の柔道整復学校協会会員校で経営の講義を担当している専門の講師に依頼した。
- ②超音波セミナーを7月26日（水）に柔整科3年生、平成30年3月7日（水）に柔整科2年生にも講演を行った。
- ③1年生特別講演を7月25日（火）に柔整科1年生を対象に本校卒業生より柔道整復師の取り扱う外傷について実技を交えて講演を行った。